

旭公民館だより

発行 令和8年1月
旭公民館
館長 伊吹 公雄
電話 45-5903
FAX 45-5903

新年のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、旭公民館の活動にあたたかいご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございました。

令和7年度のキャッチフレーズは、「みんなが主役の旭公民館」。この言葉には、地域に暮らす一人ひとりがまちづくりの中心であり、互いに支え合いながら、豊かな地域を一緒につくっていきたいという思いを込めています。

旭公民館では、誰もが安心して集える場所、学び合える場所、そして人と人とのつながりを感じられる場所を目指して、今年もさまざまな活動を進めていきます。

「住んで良かった」と思えるまちづくりに向けて、今年もどうぞよろしくお願いいたします。みなさまの一年が、健やかで笑顔あふれるものになりますように。

旭公民館館長 伊吹 公雄



北條神社に飾られた門松
中之町のみなさんが愛する心・
温かい心・敬う心でもって制作

第十五回旭寄席

**笑いで締めくくる一年
～旭寄席で心もぽかぽかに～**

旭寄席実行委員会（佐藤幸男会長）主催
おなじみの旭寄席が12月21日（日）に
開催されました。

今年も多くの方々が来場され、会場は開演前からにぎやかな雰囲気になっていました。

出演は、笑福亭恭瓶さん、露の眞さん、
笑福亭伯枝さんの3名の上方落語家。

それぞれの持ち味を生かした話芸に、会場からは大きな笑い声があがり、終始あたた

たかな空気に包まれていました。「久しぶりに大笑いした」「落語ってこんなに面白いんだ」「隣の人が笑っているから、つい笑ってしまうのよ」etc、参加者のみなさんにとって、年の瀬を楽しく締めくくるひとときとなりました。

旭寄席は、これからも地域のみなさんに「笑いと元気を届ける場」として、続けていきたいと考えています。



年の瀬に笑いであふれる会場、今回も楽しんでいただけたと思います、次回も乞うご期待

（裏面へ）

笑福亭鶴瓶師匠 サプライズ来館



佐藤茂夫さんを横に話す鶴瓶師匠



開演前にもかかわらず大勢の来場者、鶴瓶師匠登場に大喜び
佐藤さんとのエピソードを気さくに話す様子もテレビと同じ

なんと、開演 1 時間前に笑福亭鶴瓶師匠が旭公民館にサプライズで来館。これは出演のためではなく、プライベートでの訪問でわずか 30 分ほどでしたが感激！

誰もが驚く中、最も驚かれたのは、旭寄席のきっかけをつくり、実行委員として貢献されている佐藤茂夫さん（岡谷町）ご本人でした。

鶴瓶師匠は、体調が思わしくないと聞いた佐藤さんを励まそうと、この日ラジオ番組の生放送があるにもかかわらず、鶴瓶師匠の奥さんの運転で 3 時間かけて旭公民館まで駆けつけてくださったのです。

早くから来場されていた観客のみなさんも、思いがけない訪問に大喜び。握手や記念撮影を楽しむ姿があちこちで見られ、「早く来て本当によかった！」という声も聞かれました。

寄席はもちろん、サプライズの感動も相まって、絆と笑顔があふれる、忘れられない一日となりました。



写真左から笑福亭鶴瓶師匠、見送る佐藤さん、出演者の笑福亭恭瓶さん、笑福亭伯枝さん
鶴瓶師匠「車の中で嫁はんと久しぶりに夫婦の会話ができて良かったわ」と笑顔でにっこり



れんこん掘りに挑戦

～岡谷池一般開放～



んでいく様子が見られました。

「思ってた以上に難しいわ」「でも楽しい！」と、泥だらけになりながらも笑顔があふれ、れんこんが顔をのぞかせるたびに「見て見て！こんなに大きい！」と歓声が上がっていました。周囲からも「おお～！」と拍手や笑い声が響き、終始にぎやかな雰囲気包まれていました。

渡邊会長は「こうした体験を通して、地域の自然や伝統に触れてもらえたらうれしい。来年以降も続けていきたい」と話されていました。中須町のれんこん掘り、これからも地域の大切な冬の風物詩として受け継がれていきそうです。

中須町財産管理会（渡邊実会長）では、毎年恒例となっている「池干し」の時期に合わせて、れんこん掘り体験を 12 月末まで無料開放しました。今年は中須町のみなさん全体に初めて声がけをし、地域ぐるみでの参加を目指しました。

初日の 11 月 23 日（日）には、10 名ほどの中須町民が集まり、長靴や軍手を身につけて、れんこん掘りに挑戦！泥の中に手を入れて探す作業に、最初は「どこにあるの？」「掘るのが大変～！」と戸惑いながらも、次第にコツをつか



大きいれんこん掘ったで～